企画展

遺跡さんぽに行こう！

奈良時代の九九！

古代の文字読めるかな？

人の名前？

大黒さんがいるよ

発掘された京都の歴史 2022

2022.08.06(土)-08.28(日) 向日市文化資料館

2022.09.06(火)-09.19(月) ふるさとミュージアム山城
（京都府立山城郷土資料館）

2022.09.27(火)-10.10(月) ふるさとミュージアム丹後
（京都府立丹後郷土資料館）

主催：京都府教育委員会・公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

展覧会の開催にあたって

本展覧会は、府民の皆さまをはじめ、多くの方々に埋蔵文化財への興味や関心を持っていただき、遺跡や遺物に親しんでいただくことを目的に、京都府教育委員会と公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターの共催で開催しています。

今回の展覧会は、発掘調査の速報展示と企画展示の２部構成で実施します。速報展示では、令和２・３年度に京都府内で実施された発掘調査の成果を出土遺物や写真パネルなどを用いて紹介します。また、企画展示では、当調査研究センターが刊行した冊子「京都遺跡さんぽ」でも取り上げた府内の史跡や遺跡をパネルや遺物とともに紹介しています。

展示にあたっては、より分かりやすく、親しみやすくなるように心がけましたので、いにしえの世界をお楽しみください。

結びにあたり、今回の展覧会に協賛いただいた向日市文化資料館をはじめ、様々なご協力を賜った関係機関に対し、深く感謝いたします。

令和４年８月

京都府教育委員会
公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

凡　例

1．本図録は、「発掘された京都の歴史 2022　遺跡さんぽに行こう！」（向日市文化資料館：令和４年８月６日（土）～８月 28 日（日）、京都府立山城郷土資料館：同９月６日（火）～９月 19 日（月・祝）、京都府立丹後郷土資料館：同９月 27 日（火）～ 10 月 10 日（月・祝）開催）の展示図録です。
2．展示資料は、主催者及び府内各機関が主に令和２・３年度に発掘調査・整理報告作業を実施した遺跡・遺物を対象としています。
3．本図録に掲載した資料は、展示品のすべてではありません。また、展示の都合により展示品と図録掲載品が異なる場合があります。
4．本展覧会は、令和４年度国宝・重要文化財等保存・活用事業費補助金（地域の特色ある埋蔵文化財活用事業費）を受けて実施しています。
5．本展覧会にかかる資料調査、図録作成、展示資料及び写真等の借用にあたっては次の機関からご指導・ご協力をいただきました。
（順不同･敬称略）　京丹後市教育委員会、京都市、京都市考古資料館、（公財）京都市埋蔵文化財研究所、向日市教育委員会、（公財）向日市埋蔵文化財センター、長岡京市教育委員会、（公財）長岡京市埋蔵文化財センター、大山崎町教育委員会、城陽市教育委員会、八幡市教育委員会、京田辺市
6．本図録の掲載写真は、主催者撮影のもののほかは、上記の各教育委員会及び各機関から提供を受けたものです。

速報展示

発掘された京都の歴史 2022

旧石器時代

稚児野遺跡（ちごの）　福知山市夜久野町井田　公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

稚児野遺跡は、由良川の支流である牧川を見下ろす台地の上にあります。

令和３年度の調査区の西側で、前年度同様に約３万年前に鹿児島から飛来した姶良（あいら）火山灰層の下から数多くの石器が出土しました。

石器の出土位置をみると、16か所の集中地点（ブロック）があることがわかりました。16のブロックは、直径25ｍほどの円を描くように環状に分布していました。このような状況は、旧石器時代の人びとが数世帯で１つのムラを形成していた根拠とされています。

出土した石器は、チャートなどを含む多種類の石材で構成された前年度の石器群とは異なり、サヌカイト製のナイフ形石器などとシルト岩製の局部磨製石斧などから構成されています。

環状のブロックを調査している様子

サヌカイト製ナイフ形石器

サヌカイト製台形石器

シルト岩製局部磨製石斧

右：出土石器

後期旧石器時代～縄文時代

壬生遺跡（みぶ）　京都市中京区西ノ京　公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 調査

壬生遺跡は、縄文時代から古墳時代の遺跡です。令和元・２（2019・2020）年度の調査では、旧石器時代に遡る古い石器が出土しました。写真左は、約２万年前の後期旧石器時代に製作された槍先として使用された尖頭器で、右の２点は約１万年前の縄文時代草創期の有舌尖頭器です。

出土した３本の尖頭器

縄文時代中・後期

伊賀寺遺跡（いがじ）　長岡京市下海印寺　公益財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター 調査

小泉川が形成する河岸段丘上にある伊賀寺遺跡は、新設道路建設に伴い数多くの発掘調査が行われてきました。これらの内、長岡京市埋蔵文化財センターが平成21（2009）から25（2013）年度に実施した4件の発掘調査の報告書が令和3年度に刊行されました。

これらの調査では、中期末から後期にかけての土器のほか、珍しい縄文時代早期の「トロトロ石器」とも呼ばれる石鏃の形状をした儀礼用に用いたとされる局部磨製石器や、後期の碧玉製の玉の未成品も出土しています。

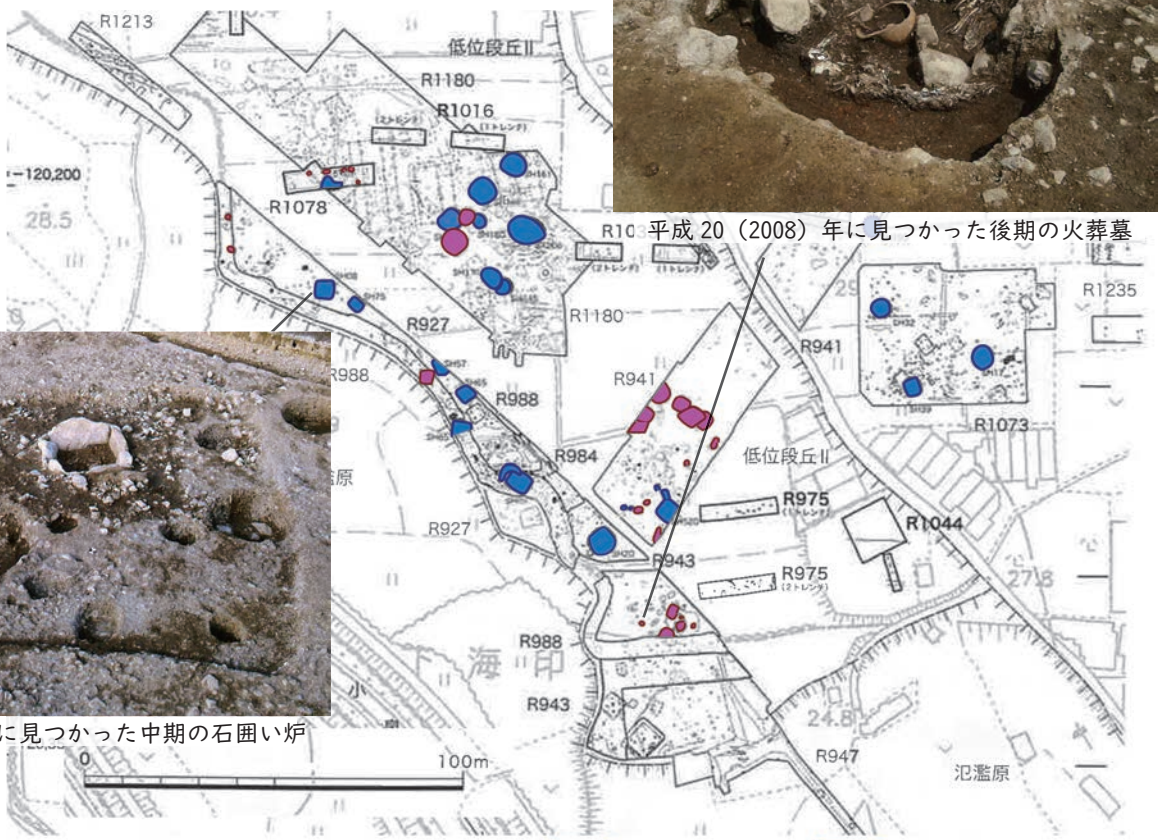
当センターが平成20・21（2008・2009）年度に行った調査では、縄文時代中期の石囲い炉や後期の火葬墓など西日本では類例の少ない遺構なども見つかっており、これらの調査成果から、伊賀寺遺跡では西日本ではめずらしく縄文時代中期から後期にかけて集落が継続的に営まれていた様子が明らかになりました。

チャート製の局部磨製石器

縄文時代後期の碧玉製の玉の未成品

平成20（2008）年に見つかった後期の火葬墓

平成21（2009）年に見つかった中期の石囲い炉



縄文時代中期・後期の遺構分布状況（報告書の図に加筆）

弥生時代中期

佐屋利（さやり）遺跡

京丹後市峰山町新町・荒山　公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

佐屋利遺跡（手前）から平野部を望む

検出された弥生時代の円形住居と古墳時代の方形住居

佐屋利遺跡は、竹野川右岸の段丘上に位置する遺跡です。調査地の北端の調査区からは、弥生時代中期と古墳時代前期の集落跡が見つかりました。

弥生時代中期の円形竪穴住居（ＳＨ 3101）は、柱穴や壁板を立てた円弧を描く溝から直径９ｍほどのやや大きめの住居に復元できます。建物に隣接する溝（ＳＤ 95）からは、２つの大型石包丁が重なって出土しました。いずれも、刃が研がれた状態で刃部長 30cm を越える凝灰岩製のものです。このような大型石包丁は、稲の根刈りや草刈りなどを行う道具と考えられています。同じ石材で同じ大きさのものが、７km ほど南の上野遺跡からも出土しており、両者の関係が注目されます。ほかに、壺の体部に動物を描いた弥生土器（絵画土器）も出土しました。

また、古墳時代前期の方形竪穴住居も見つかりました。

動物を描いた土器

２つの大型石包丁

よく似た京丹後市大宮町上野遺跡出土の大型石包丁

古墳時代前期

史跡 五塚原古墳（いつかはら）　向日市寺戸町芝山　公益財団法人 向日市埋蔵文化財センター 調査

五塚原古墳は、向日丘陵上に立地する墳丘長91.2ｍを測る前方後円墳で、史跡乙訓古墳群を構成する１基です。平成25（2013）年度から令和元（2018）年度まで発掘調査が行われ、奈良県箸墓（はしはか）古墳と共通の特徴をもつ最古段階の古墳の１つであることがわかりました。また、後円部墳頂の平坦面には礫が敷かれ、壺の底部が据えられた状態で出土しました。後円部の中央に川原石積みの竪穴式石槨を持つことがわかりました。

後円部の墳丘裾では、石を長方形に配した区画内に異形朝顔形埴輪を棺として入れ、小口や透かし穴を楕円筒埴輪の破片でふさいでいました。埴輪は妙見山古墳から持ち込まれたと考えられます。出現期の古墳の構造や葬送儀礼を考えるうえで貴重な資料が得られました。

築造後しばらくして埴輪棺として設置された異形朝顔形埴輪

後円部墳頂部で見つかった竪穴式石槨（せっかく）

写真提供：（公財）向日市埋蔵文化財センター

古墳時代前期

史跡 寺戸大塚古墳（てらどおおつか）　向日市寺戸町芝山　公益財団法人 向日市埋蔵文化財センター 調査

寺戸大塚古墳は、墳丘長98ｍを測る前方後円墳で、史跡乙訓古墳群を構成する１基です。本古墳は、第６向陽小学校から竹林公園へ続く竹林の中に位置します。後円部と前方部に竪穴式石槨の埋葬施設を持ち、墳丘裾部では２基の埴輪棺が見つかっています。

今回の調査では、東くびれ部付近で調査を行いましたが、くびれ部は筍の土入れ作業で削平され、墳丘などは残っていませんでした。一方、後円部側の藪土の下からは葺石や礫敷きが良好な状態で見つかりました。

くびれ部の葺石の状況

写真提供：（公財）向日市埋蔵文化財センター

古墳時代前期～中期

幾坂古墳群・幾坂東古墳群　京丹後市大宮町周枳　公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター　調査

幾坂古墳群から峰山盆地を望む（南東から）

幾坂東古墳群・幾坂古墳群は丹後半島最長の河川である竹野川の中流域、右岸の丘陵上にあります。令和３年度に幾坂東３号墳、幾坂１・40・41号墳を調査しました。幾坂東３号墳の埋葬施設からは勾玉や管玉などの玉類が出土しました。

幾坂１号墳からは、ガラス製小玉が出土しました。同40号墳では剣・刀・鏃・槍先・鉾などの鉄製武器類や、臼玉・勾玉・管玉などの玉類、竪櫛などの漆製品が出土しました。

幾坂１号墳出土のガラス製小玉

幾坂東３号墳遠景（東から）

幾坂40号墳出土の瑪瑙製勾玉

古墳時代前期

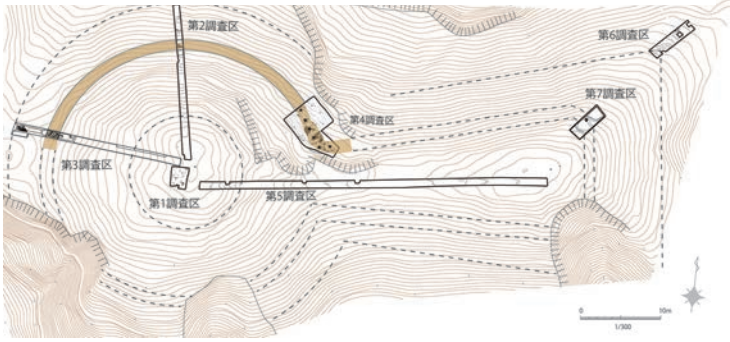
天理山古墳群（てんりやま） 京田辺市薪　　京田辺市 調査

天理山古墳群は、田辺丘陵の東側、京都盆地や木津川流域に展望の開けた丘陵上にあります。範囲確認調査で、前方後円墳２基（１・３号墳）、前方後方墳１基（４号墳）が確認されました。

３号墳は、後円部と前方部でのトレンチ調査の結果、墳丘長81ｍを測り、市内でも飯岡（いのおか）車塚古墳（墳丘長87ｍ）に次ぐ２番目に大きな前方後円墳であることがわかりました。葺石と円筒埴輪列が確認されました。出土遺物から４世紀後半の築造とわかりました。

なお、１号墳は墳丘長57ｍの前方後円墳、４号墳は墳丘長42ｍの前方後方墳です。築造順は４号墳→１号墳→３号墳となり、規模がだんだん大きくなっています。

天理山古墳群は、令和４年６月に国の文化審議会から、綴喜古墳群として、史跡指定の答申が出されました。



天理山３号墳測量図（出典：現地説明会資料）

くびれ部から出土した円筒埴輪

古墳時代前期

史跡 網野銚子山古墳（あみのちょうしやま） 京丹後市網野町網野　　京丹後市教育委員会 調査

史跡網野銚子山古墳は、福田川河口部を見下ろす台地上に築造された前方後円墳です。４世紀後半に営まれた墳丘長約200ｍを測る日本海側最大規模の前方後円墳で、後円部頂上からは日本海が広く見渡せます。

令和元年度には、前方部と後円部の境目にあたるくびれ部付近の調査が行われ、墳丘斜面に設置された葺石と、テラスに並べられた埴輪列とその周りに敷き詰められた礫を確認しました。くびれ部の葺石の裾には、一回り大きな石材が配置されていました。

大型前方後円墳のくびれ部の構造が明らかになった貴重な例となります。

網野銚子山古墳（手前）と福田川河口部

くびれ部から出土した
丹後型円筒埴輪

くびれ部の葺石の状況

写真提供：京丹後市教育委員会

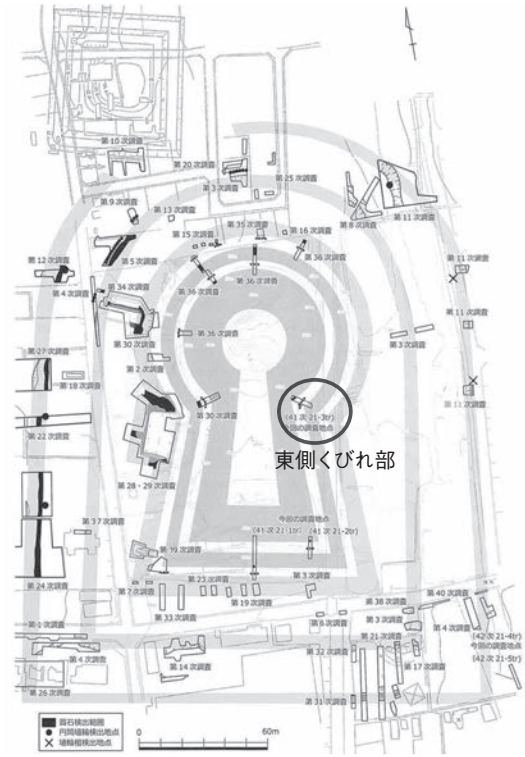
古墳時代中期

史跡 久津川車塚古墳（くつかわくるまづか）　城陽市平川車塚　城陽市教育委員会 調査

史跡久津川車塚古墳は、大谷川扇状地のほぼ中央に位置する墳丘長約 175 mの山城地域最大級の前方後円墳です。墳丘は３段に築かれ、周囲には周濠・外堤・外濠がめぐり、外濠を含めた南北長は約 272 mを測ります。墳丘斜面に葺石が施され、墳頂部とテラスには埴輪列がめぐらされています。

令和３年度の調査（第41次調査）は、墳丘東側のくびれ部を中心に実施されました。調査地は、中段テラスにあたり、接するように配置された円筒埴輪列が屈曲する様子を確認することができました。

くびれ部で屈曲する円筒埴輪列
写真提供：城陽市教育委員会



久津川車塚古墳調査地の位置
（城陽市教育委員会作成の図に加筆）

古墳時代後期

法貴北古墳群（ほうききた）　亀岡市曽我部町犬飼　公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

写真左：5 号墳全景
写真上：小石室

法貴北古墳群は、霊仙ヶ岳（れいせんがたけ）の山麓に造営された古墳群の１つで、27 基の古墳の存在が知られています。

このうち、法貴北５号墳と 20 号墳を調査しました。５号墳は横穴式石室を埋葬施設とする直径８ｍの円墳です。石室長 5.3 ｍの無袖（むそで）の横穴式石室の内部からは、須恵器杯身・杯蓋・台付長頸壺・平瓶（へいへい）などが出土しました。６世紀後半に築造され、７世紀まで利用されていたことがわかりました。20 号墳は、全長 3.2 ｍの無袖の横穴式石室を埋葬施設とする直径６ｍのやや小さい円墳です。石室内からは金銅製の耳環（じかん）と鉄鏃が出土しました。また、20 号墳の近くからは木棺墓と小石室も見つかっています。

古墳時代前期・中期

小樋尻遺跡（こひじり）　城陽市富野久保田　公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

小樋尻遺跡は、城陽市のほぼ中央部の木津川右岸に位置し、木津川により形成された沖積平野部に立地します。令和２年度の調査では、縄文～弥生時代の自然流路の一部を加工した古墳時代前期の流路が見つかりました。流路から水流を調整する施設や導水施設が検出され、水辺の祭祀が行われたと考えられます。この流路が埋まると古墳時代後期に新たに水路が造られました。水路の両底部は草木（そうもく）類を敷き造成土を強化する敷葉（しきは）工法という技術が使われています。この水路は改修を繰り返しながら、奈良時代まで使用されており、周辺の耕作地に水を供給したと考えられます。

令和３年度の調査では、竪穴住居、掘立柱建物、井戸、溝などが見つかりました。円形の素掘りの井戸からは、弥生時代末から古墳時代初めの完形の土師器甕などが見つかりました。古墳時代後期の竪穴住居は重複し、古い竪穴住居は一辺約４ｍ、新しい竪穴住居は一辺約３ｍであることから、規模をやや縮小して建て直されたと考えられます。調査区中央で検出した北西から南東に延びる溝からは奈良時代の須恵器・土師器のほか、骨片が見つかり、南西側に隣接する掘立柱建物と関連する溝と考えられます。調査区周辺は、弥生時代末～古墳時代前期に集落域としての土地利用が始まり、その後、古墳時代後期や奈良時代にも集落域として断続的に利用されていたことがわかりました。

令和２年度調査の古墳時代の流路から出土した土師器

令和３年度の調査で見つかった弥生時代末から古墳時代初めの井戸

令和３年度の調査で見つかった古墳時代後期の住居

鶴尾遺跡（つるお）　京丹後市峰山町丹波

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター　調査

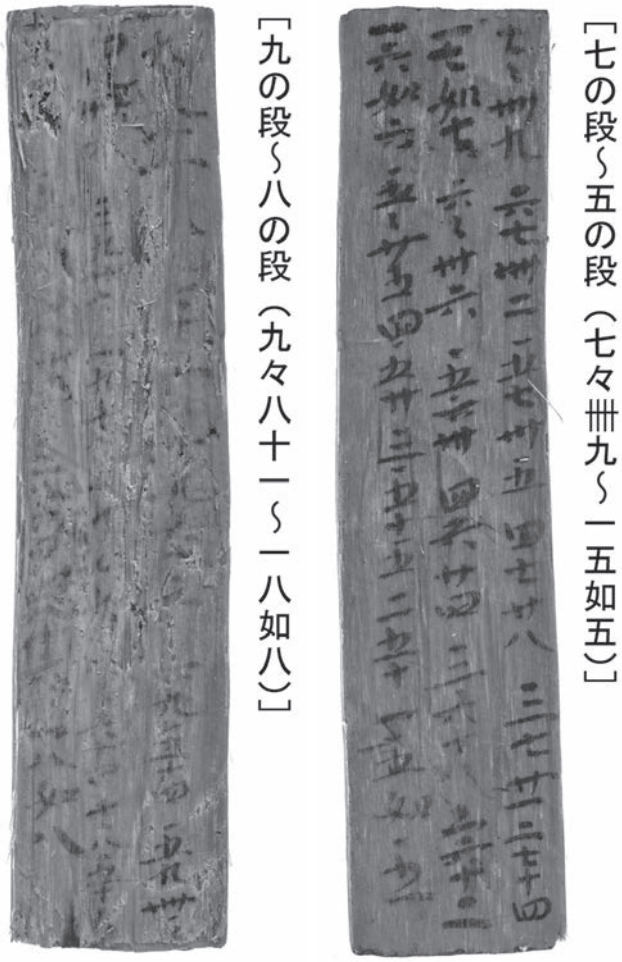
調査地遠景

鶴尾遺跡は、峰山盆地北端部に位置し、丹後半島を北流する竹野川左岸の谷部に立地します。令和３年６月に京都府教育委員会の試掘調査で新たに発見された奈良時代の集落遺跡です。

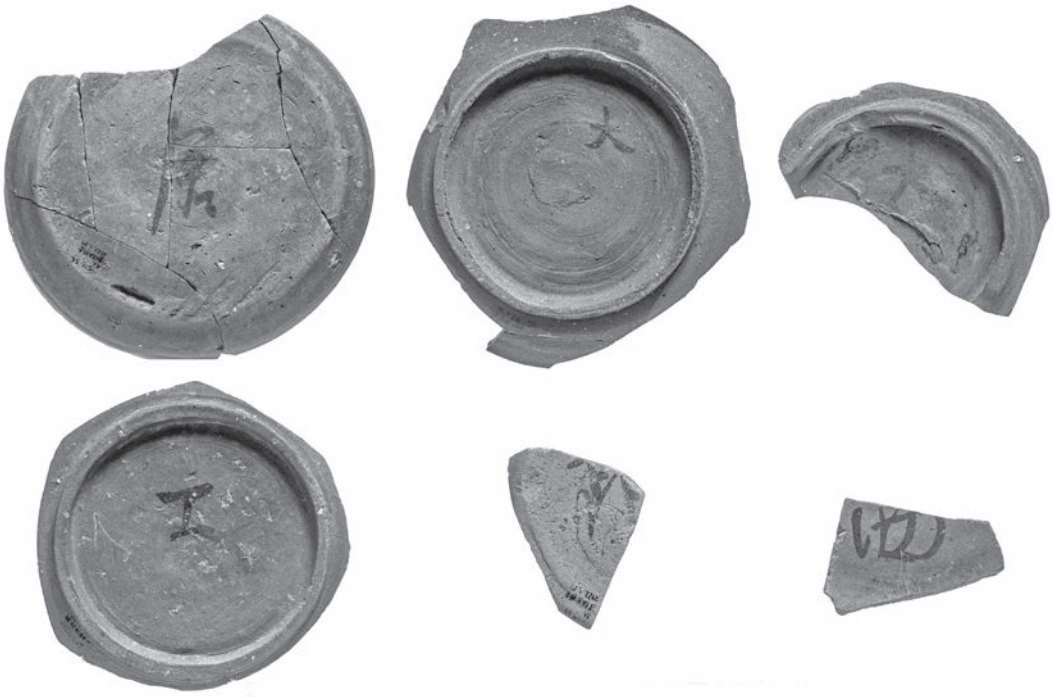
令和３年度の調査で、奈良時代の溝や土坑などから３点の木簡と６点の墨書土器、計９点の文字資料が出土しました。木簡の一つは九の段から五の段の九九が書かれた「九九木簡」です。地方官衙に勤務する役人は、徴税管理などを行う上で、文字を書き、計算をする必要がありました。この九九木簡は、役人が利用する一覧表だったとも考えられます。

『和名類聚抄（わみょうるいじゅうしょう）』に記された古代丹波郡丹波郷にあたる当地で、読み書きができる役人のいた官衙（かんが）（役所）の存在をうかがわせる遺物が出土したことは、地域の歴史を考える上で、大きな発見でした。

（『和名類聚抄』は、平安時代中期に作られた漢和辞書）



九九木簡赤外線写真（奈良文化財研究所撮影）



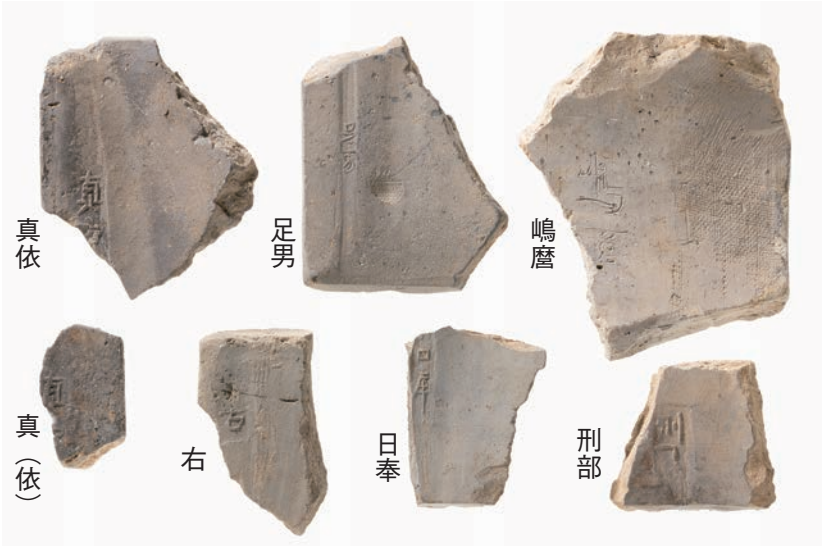
墨書土器赤外線写真（「倉」「大」「大」「工」「政？」「西？」・奈良文化財研究所撮影）

奈良時代

栢ノ木遺跡　綴喜郡井手町井手　公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター　調査

令和２・３年度に調査した橘諸兄創建と伝える井手寺の塔跡からは、五重塔に葺かれた膨大な量の瓦をはじめ土器や金属器などの様々な遺物が出土しました。現在整理中ですが、建築部材の様子が明らかになるとともに、瓦の分析も進んできました。建築部材としては、多量の鉄釘が出土しているほか、扉材などに使われたと思われる銅製の金具が出土してします。工人名を記したとされる恭仁宮式文字瓦には、「真依」「足男」「右」「刑部」「神人」があります。また、これらとは別に、「嶋麿？」と線刻された文字瓦も出土しています。

銅製金具



出土した文字瓦（右上のみ線刻、ほかは押印）

奈良時代

上奈良遺跡　八幡市八幡上奈良　八幡市教育委員会 調査

上奈良遺跡は木津川の南方の低地に立地する遺跡です。奈良時代の掘立柱建物が見つかっており、多数の墨書土器や硯が出土しました。

墨書土器の中には中国・唐の女帝則天武后が 690 年に制定した「則天文字」が記された土器もあります。また、「考所」は古代の役人の勤務評定を担当する部署を指します。

こうした資料から、上奈良遺跡の近くに官衙（役所）と関連する施設があった可能性が考えられます。近くに「御園」という地名があることや、『延喜式』の記述などから、奈良時代に朝廷用の菜園が存在していたのかもしれません。

文字を書く役人のいた証拠となる円面硯

土器に記された様々な文字（左から「遠」「考所」則天文字）

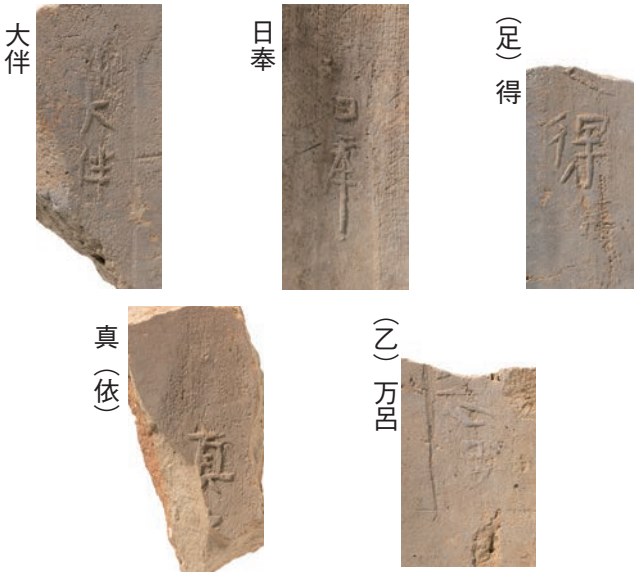
奈良時代

史跡 恭仁宮跡（くにきゅう）　木津川市加茂町例幣　京都府教育委員会 調査

恭仁宮は、天平 12（740）年に聖武天皇が造営した宮都です。恭仁宮は平城宮から政治の中心となる大極殿などが移築された宮殿でした。天平 16 年に都は難波宮に遷り、足かけ５年ほどの短命な都でした。

令和３年度の第 102 次調査では、朝堂院北辺を区画する掘立柱塀などを検出し、工人の名を押印したとされる「恭仁宮式文字瓦」が出土しました。この瓦は、恭仁宮以外からも出土しており、恭仁宮の造営が途中で中止になったことで、流用されたのかもしれません。

朝堂院の北側を区画する掘立柱塀



令和３年度の調査で出土した恭仁宮式文字瓦の押印

奈良時代

乙訓寺（おとくにでら）　長岡京市今里　長岡京市教育委員会 調査

調査地全景　写真提供：長岡京市教育委員会

乙訓寺は白鳳（はくほう）期の創建と伝えられ、奈良時代には桓武（かんむ）天皇の実弟早良（さはら）親王が幽閉されたことで有名な寺院です。創建時の伽藍配置や規模などは明らかになっておらず、現存する建物は江戸時代元禄期以降に再興されたものです。

令和３年度に境内駐車場敷地内で行われた第 29 次調査において、長岡京期の大型掘立柱建物に伴う柱穴などが見つかりました。建物を構成する柱穴は、第１次調査で確認されている「講堂」とされる建物と同じ大きさです。乙訓寺の遺構の中でも最大規模のもので、講堂跡東端の柱列と同軸上に位置することから、乙訓寺の「南門」である可能性があります。

長岡京期

長岡京跡右京第1220次（ながおかきょう）　長岡京市井ノ内　公益財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター 調査

調査地は、長岡京跡右京二条二坊十二町にあたります。令和２年度の調査では、二条大路の北側溝や西二坊坊間西小路の東側溝や土坑が見つかりました。

溝や土坑からは多くの土師器、須恵器、瓦などが出土しました。中でも注目されるのは、西二坊坊間西小路の東側溝の底から出土した長岡京跡では例のない銅鈴です。卵型の鈴と、きわめて薄い飾り板を銅線で組み合わせたもので、飾り板を除く鈴の長さは2.75cm、幅は1.7cm、厚さは1.3cmを測ります。正倉院宝物に類例があり、幢幡（どうばん）（仏堂などを飾る旗）に付けられた鈴や垂飾として使用されたと考えられることから、周辺に寺院などの仏教関連施設が存在していた可能性が指摘されています。

溝底から出土した銅鈴

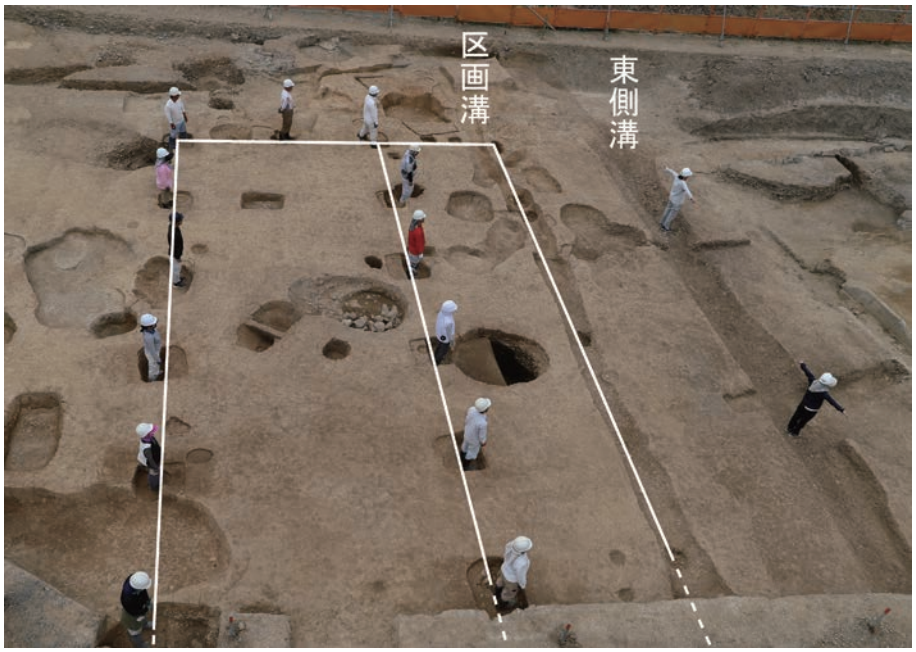
調査地全景　写真提供：長岡京市教育委員会

長岡京期

長岡京跡右京第1241次（ながおかきょう）　長岡京市神足　公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

調査地は、長岡京跡右京七条一坊十五・十六町にあたります。令和３年度の調査では、西一坊大路東側溝のほか、その内側で区画溝や掘立柱建物、さらに北側では長岡京期の竪穴建物などが見つかり、西一坊大路に面した宅地の状況が明らかとなりました。

十五町内で見つかった掘立柱建物は、西側に廂（ひさし）を持つなど近隣町内で確認されている建物の中では規模が大きく、その北側で見つかった大型の土坑から多くの須恵器・土師器とともに円面硯や墨書土器などが見つかっていることから、公的施設であった可能性があります。



西一坊大路東側溝と近接して建つ掘立柱建物

右写真：円面硯（左）と「大」（2か所）と「+」が記された須恵器杯（右）

平安京右京三条一坊六町跡（へいあんきょう） 京都市中京区西ノ京小倉町　公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 調査

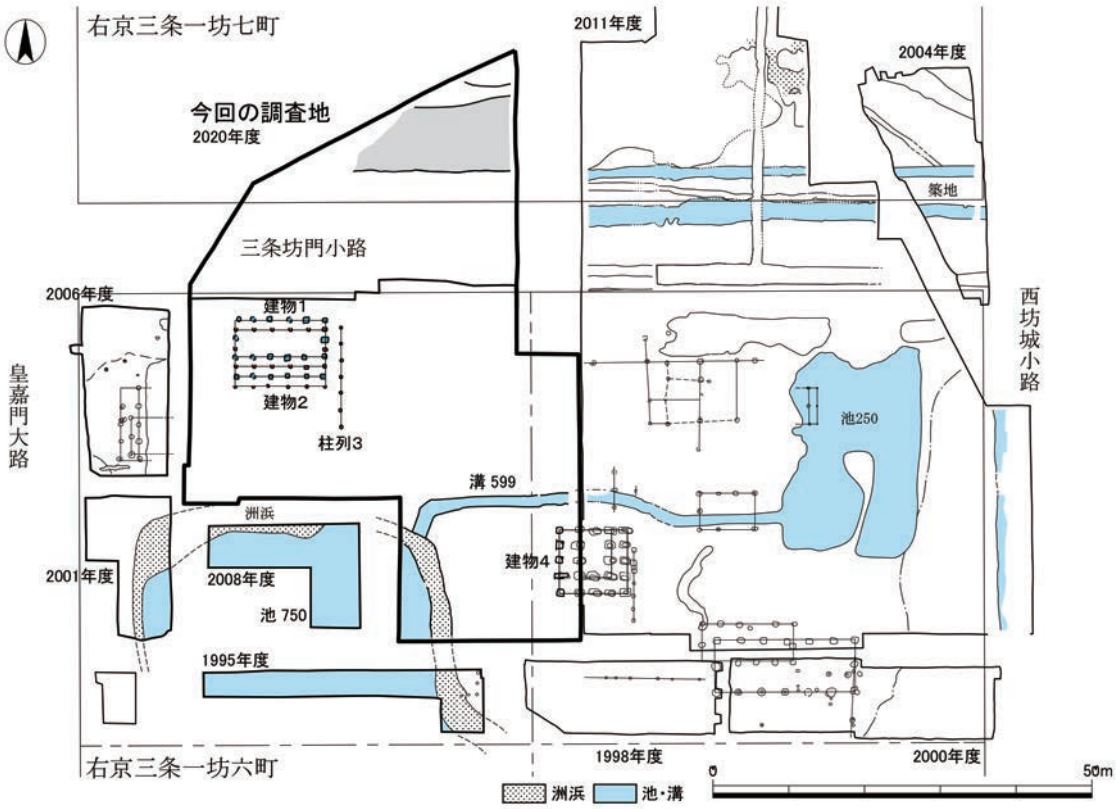
調査地である六町域は、周辺の調査成果によって、平安時代前期の右大臣藤原良相（よしみ）の邸宅「西三条第」の一画とされています。令和２年度の調査では、平安時代前期の掘立柱建物跡、溝、池が見つかりました。建物は、平成10年度の調査で見つかった池の北側に建てられ、溝は二つの池を結んでいるようです。池の洲浜には礫が敷かれ、儀式や饗宴を好んだ平安貴族にふさわしい園池を形成していました。

今回の調査でも、緑釉陶器、灰釉陶器、墨書土器など、高級貴族にふさわしい遺物が出土しています。

池 750（池岸・洲浜部分）

写真提供：（公財）京都市埋蔵文化財研究所

「七条院」の墨書のある土師皿



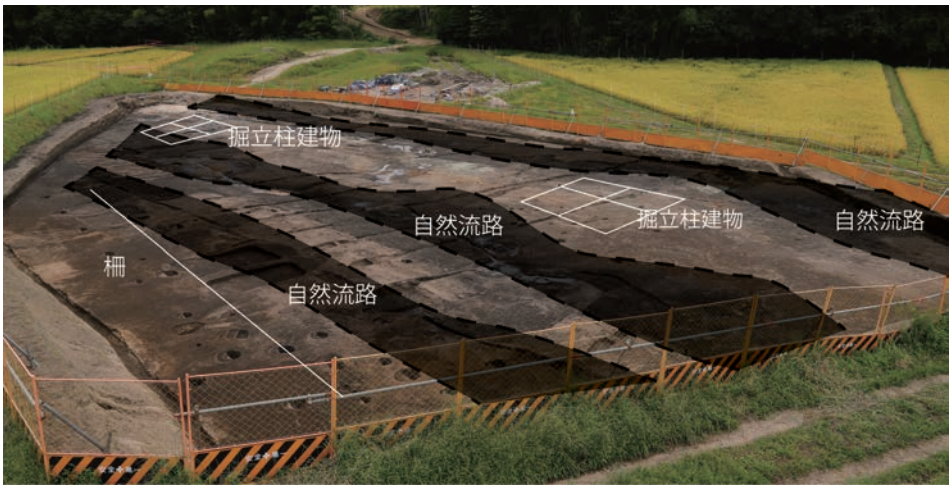
平安時代前期の平安京右京三条一坊六・七町宅地内遺構配置図

（出典：リーフレット京都　No.387）

奈良時代・平安時代

佐屋利遺跡（さやり）　京丹後市峰山町新町・荒山　公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

信仰や呪術などまじないに用いられた呪符木簡



古代末から中世の流路などが見つかった調査区

平安時代の黒色土器椀

佐屋利遺跡では、弥生時代の遺構が見つかった地区の南東側の地区から古代末から中世初期にかけての自然流路や掘立柱建物などが見つかりました。流路内からは土師器、須恵器、黒色土器、輸入陶磁器、櫛、下駄、呪符（じゅふ）木簡などさまざまな遺物が出土しました。

平安時代

犬飼遺跡（いぬかい）　亀岡市曽我部町法貴　公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

犬飼遺跡は、亀岡盆地南西部の法貴谷川によって形成された扇状地に位置する古墳時代から中世にかけての集落遺跡です。調査の結果、古墳時代の竪穴住居や自然流路、中世の墓、掘立柱建物、多数の溝が見つかりました。調査地南側は、中世以前は水田耕作地でしたが、洪水で平地化し、12 世紀後半ごろになると掘立柱建物が建てられて居住域となります。その後、南北方向の条里に沿った溝が掘られ耕作地になると考えられます。墓も営まれ、中国製の小壺や椀が副葬されました。近世になると土地造成が行われて水田化することがわかりました。

中世の墓を検出した状況

中世の墓に供えられた中国製の青白磁の小壺（上）と白磁椀（下）

平安時代・鎌倉時代

井手遺跡（いで）　亀岡市本梅町西加舎　公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

井手遺跡は亀岡盆地から丘陵を隔てた西側、北上する本梅（ほんめ）川が形成する扇状地上に立地する集落遺跡です。今回の調査では、平安時代後期（11 世紀後半頃）の掘立柱建物からなる建物群と井戸を検出しました。出土遺物には、土師器皿、瓦器椀、土師質の鍋・羽釜などがあります。

調査地全景

平安時代後期の井戸

室町時代

富ノ森城跡（とみのもりじょう）　京都市伏見区横大路六反畑　公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 調査

調査地全景
写真提供：（公財）京都市埋蔵文化財研究所

溝から出土した土師器椀、瓦器椀、瓦質の壺

室町時代の平地居館として知られる富ノ森城跡の居城推定地の北東 50 m の地点で調査が行われました。桂川と宇治川に挟まれた沖積地に立地し、当時はすぐ南に巨椋池が広がっていました。調査の結果、鎌倉時代から江戸時代初期にかけての集落跡が新たに見つかりました。室町時代の遺構としては、掘立柱建物や柵列、井戸や溝が検出されました。

安土桃山時代

伏見城跡（ふしみじょう）　京都市伏見区桃山町鍋島ほか　公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 調査

伏見城は、伏見区桃山の丘陵にある豊臣秀吉、徳川家康が築いた城の総称です。伏見城は、三度に渡って築城され、最初の城（指月伏見城）は朝鮮出兵（文禄の役）開始後の文禄元（1592）年８月に秀吉が建設を始めています。慶長の大地震での倒壊後に木幡山（伏見山）に再築されます(木幡山伏見城)。木幡山伏見城は、豊臣秀吉により建設された豊臣期と、伏見城の戦いで焼失した跡地に徳川家康が再建した徳川期に分けられます。

令和３年度に２か所で調査が行われました。JR 桃山駅前の調査では、指月伏見城の石垣の基礎部分が検出され、巴文の金箔瓦などが出土しました。木幡山伏見城の城下町の調査では花文様の金箔瓦が出土しています。

指月伏見城の石垣の基礎部

写真提供：（公財）京都市埋蔵文化財研究所

指月伏見城の巴文金箔瓦

木幡山伏見城の菊文金箔瓦

江戸時代

御土居（おどい）跡・平安京右京六条一坊三町（へいあんきょう）跡　京都市下京区中堂寺南町　公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 調査

極印鑽

御土居の南北方向の堀から鉄製の長さ 11.3cm・重さ 532 g の極印鑽（ごくいんたがね）が出土しました。極印とは、金・銀貨などに品質保証、偽造防止のために銀座で打つ印のことです。同じ層から 17 世紀から 18 世紀初頭の土器・陶磁器類が出土していることや極印の書体などから慶長丁銀の極印鑽と考えられます。

極印面は、横約 3.4cm、縦約 1.7cm の長方形で、向かって右に「常是」の二文字、向かって左に二つの米俵の上に乗る大黒天が陰刻されています。

慶長丁銀とは、慶長６（1601）年から、元禄８（1695）年の間、江戸幕府により鋳造された秤量貨幣（しょうりょうかへい）です。実は、文献史料から極印鑽は、偽造されていたことがわかっています。出土場所が、両替町御池にあった京都銀座から離れていることをふまえると、偽丁銀製造のための道具であった可能性が浮かび上がります。とはいえ、丁銀に関わる極印鑽の出土は全国的にも初めての貴重な事例です。

木津川河床遺跡（きづがわかしょう）　八幡市八幡

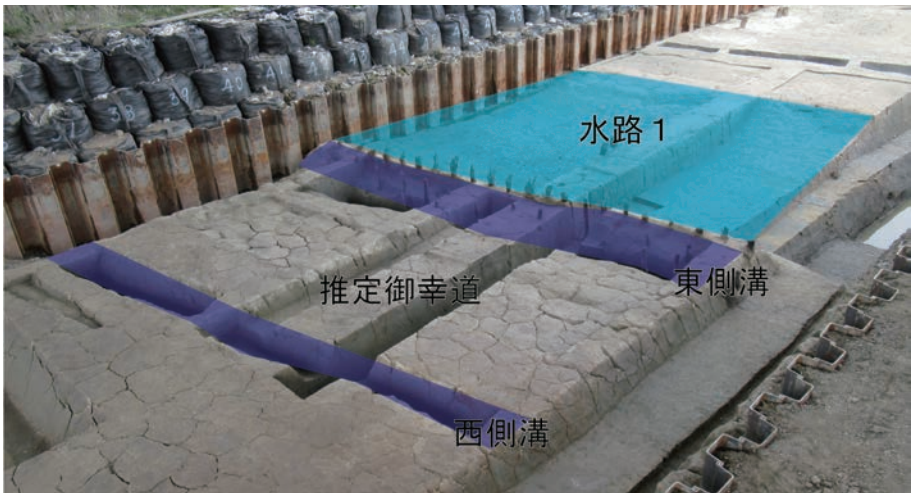
公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

木津川河床遺跡は京都市と八幡市にまたがる広大な面積の遺跡です。令和３年度の発掘調査では、古墳時代から江戸時代までの幅広い遺構が見つかりました。中でも、調査地中央付近で見つかった２本の溝と幅７ｍほどの水路は、江戸時代の絵図に残る「御幸道」に関するものと考えられます。

「御幸道」は、京街道から直接つながる街道で、その先は石清水八幡宮の一の鳥居に繋がっています。その「御幸」という名前から、都から皇族や公家などが石清水八幡宮を参詣する際の参道と考えられています。今回見つかった水路は、当時放生川として整備されており、現在は大谷川という名前で八幡市内を流れています。

現在の木津川は明治２年に付け替えられたもので、江戸時代には現在よりも２㎞ほど東を流れていました。そのため、今回の調査地から石清水八幡宮までは陸続きになっており、その様子が絵図に残っています。２本溝のうち、東側の側溝と水路は多くの杭が打ち込まれ、非常に丁寧な護岸が行われています。これは、この水路と側溝が周辺の人々の生活に重要なものであったということを示しています。

調査地上方から石清水八幡宮を望む



絵図に描かれた水路と御幸道と考えられる遺構

八幡山上山下惣絵図（18 世紀　国立公文書館内文庫蔵）

企画展示

遺跡さんぽに行こう！

京都府内には、発掘調査などを通じて、その様相が明らかになった古墳や集落跡などの遺跡がたくさんあります。これらの中には、史跡や公園として保護され、現地に訪れると歴史を実感できるものも数多くあります。

令和２年度に当調査研究センターが設立 40 周年を迎えたことを記念し、多くの方に、これらの遺跡に親しんでもらうことを目的として、Ａ５版 56 頁の小冊子『京都遺跡さんぽ』を作成しました。府内の遺跡（史跡）や資料館など 117 か所を紹介しています。この展覧会を機に、各地域の主な遺跡をご紹介します。

この小冊子を手にとっていただき、遺跡さんぽに行っていただければ幸いです。

丹後　史跡 赤坂今井墳墓（あかさかいまい）　京丹後市峰山町赤坂　峰山町教育委員会ほか 調査

赤坂今井墳墓は、峰山盆地から福田川流域に抜ける道の途中、丘陵先端部にある弥生時代後期に営まれた大型墳丘墓です。墳丘は東西 36 m・南北 39 m・高さ４ｍを測ります。

墳頂部からは６基の埋葬施設が見つかり、中心埋葬に次ぐ大きさの第４埋葬からは、ガラス勾玉など 300 点以上の玉からなる頭飾りが出土しました。中心埋葬は、長さ 14 m・幅 10.5 m を測り、国内の弥生墳墓としては最大の規模です。

平成 12（2000）年度に峰山町（現京丹後市）教育委員会と当調査研究センターが合同で調査を実施し、その後の範囲確認調査を経て、平成 22（2010）年に国史跡に指定されました。

写真上　調査地全景
写真下　墳頂部の様子

中丹　史跡 私市円山古墳（きさいちまるやま）　綾部市私市町　京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

私市円山古墳は、由良川中流域、由良川を見下ろす丘陵上にあります。現在は、墳丘の下を舞鶴若狭自動車道がトンネルで通過しています。

５世紀中頃に造られた府内最大の円墳で、直径約 70 m・高さ 10 m の円丘の南東側に幅 18 m・長さ 10 m の造り出しが付きます。

墳頂部からは３基の埋葬施設が見つかり、中央の木棺内からは、鉄製の冑類・刀類・農工具と銅鏡や玉類が出土しました。

当調査研究センターが昭和 63（1988）年度に発掘調査を実施した後、綾部市教育委員会が保存を目的とした調査を実施し、平成６（1994）年度に国史跡に指定されました。出土品（府指定文化財）は綾部市資料館で見ることができます。

写真上　墳丘部全景（北から）
写真下　墳頂部の様子

南丹　保津車塚古墳（ほづくるまづか）　亀岡市保津町社ノ下　京都府埋蔵文化財調査研究センター調査

保津車塚古墳は、保津川の右岸、舌状台地上に位置し、按察使（あぜち）１号墳とも呼ばれる前方後円墳です。ほ場整備事業に伴い周辺部が発掘調査され、現在墳丘は保存されています。全長 53 m・後円部径 36 m を測り、５世紀後半に築造されました。二重の濠（ほり）を持ち、墳丘を葺石や木製の樹物（たてもの）で飾っていたようです。木製樹物には、石見型盾形埴輪を模したもの（写真左２つ）と笠形のもの（写真右端）がみられます。

亀岡盆地では、馬路町の坊主塚古墳（一辺 38 m）、篠町の桝塚古墳（同 33 m）など保津車塚古墳以前は方墳が首長墓に採用されています。６世紀前半になると盆地最大の全長 82 m の前方後円墳である千歳車塚古墳が千歳町に築かれます。首長墓が方墳から前方後円墳へと変化する様子が明らかになりました。

保津車塚古墳調査地全景（東から）

出土木製樹物（木製埴輪）

京都市　聚楽第跡（じゅらくだい）　京都市上京区　京都府埋蔵文化財調査研究センター調査

聚楽第は、関白となった豊臣秀吉が、天正 14（1586）年に京都での政庁・居城として平安宮の大内裏の跡地に築造した城郭です。聚楽第だけでなく周囲の大名屋敷の屋根までもが絢爛豪華な金箔瓦で飾ることになります。

文禄４（1595）年に秀吉は、聚楽第を譲った秀次を謀反の疑いで自刃にさせるとともに聚楽第を徹底的に破壊したとされています。平成 24（2012）年度の発掘調査で初めて、聚楽第の石垣が発見されました。

聚楽第城下の大名屋敷に用いられた金箔瓦

地下に埋もれていた聚楽第の石垣（東から）

乙訓　史跡 大山崎瓦窯跡（おおやまざきかわらかまあと）　乙訓郡大山崎町大山崎　大山崎町教育委員会 調査

史跡大山崎瓦窯跡は、８世紀末から９世紀前半にかけて、平安京の造営に必要な瓦を生産した遺跡です。平成16（2004）年11月から始まった宅地造成に伴う発掘調査でその存在が初めて明らかになり、その後保存が決まり、平成18年1月に国史跡になりました。現在は史跡公園として整備されています。

全体（史跡地外含む）で12基の瓦窯が整然と配置されており、計画的な瓦生産が行われたことがわかります。

出土した瓦には、京都市北区の西賀茂瓦窯群や吹田市吉志部（きしべ）瓦窯から移動してきた型（笵（はん））で造られたものと大山崎瓦窯独自の型で造られたものがあります。

B群瓦窯（1・9・10号窯）

軒丸瓦

軒平瓦

南山城　平等院旧境内遺跡（びょうどういんきゅうけいだい）　宇治市宇治　京都府埋蔵文化財調査研究センター 調査

平等院は、父藤原道長から別業（別荘）を継承した藤原頼通により、永承7（1052）年に寺院として創建されました。

平成26（2014）年度に実施した平等院北側の塔の川の川底での発掘調査では、たくさんの瓦が出土しました。付近には平等院に関係するなんらかの堂宇があったことが推定できます。平安時代には、宇治川に張り出した釣殿（つりどの）という建物があり、室町時代後期まで残っていたと伝えられています。

平等院旧境内遺跡の調査（左宇治川・塔の川、右奥平等院）

平等院旧境内遺跡から出土した平安時代後期の軒丸瓦

展　示　遺　跡　位　置　図

1.史跡網野銚子山古墳
2.史跡赤坂今井墳墓
3.霸尾遺跡
4.佐屋利遺跡
5.幾坂東古墳群･幾坂古墳群
6.稚児野遺跡
7.史跡私市円山古墳
8.保津車塚古墳
9.井手遺跡
10.法貴北古墳群
11.犬飼遺跡
12.聚楽第跡
13.壬生遺跡
14.平安京右京三条一坊六町跡
15.御土居跡
16.伏見城跡
17.富ノ森城跡
18.史跡寺戸大塚古墳
19.史跡五塚原古墳
20.長岡京跡右京第1220次
21.乙訓寺
22.長岡京跡右京第1241次
23.伊賀寺遺跡
24.史跡大山崎瓦窯跡
25.木津川河床遺跡
26.平等院旧境内遺跡
27.上奈良遺跡
28.史跡久津川車塚古墳
29.小樋尻遺跡
30.天理山古墳群
31.栢ノ木遺跡
32.史跡恭仁宮跡

「発掘された京都の歴史 2022　遺跡さんぽに行こう！」展示図録

発行日　令和４年８月６日

編集・発行　公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002　向日市寺戸町南垣内 40-3　TEL.075-933-3877　Fax.075-922-1189
ホームページアドレス　http://www.kyotofu-maibun.or.jp
印刷　中西印刷株式会社